

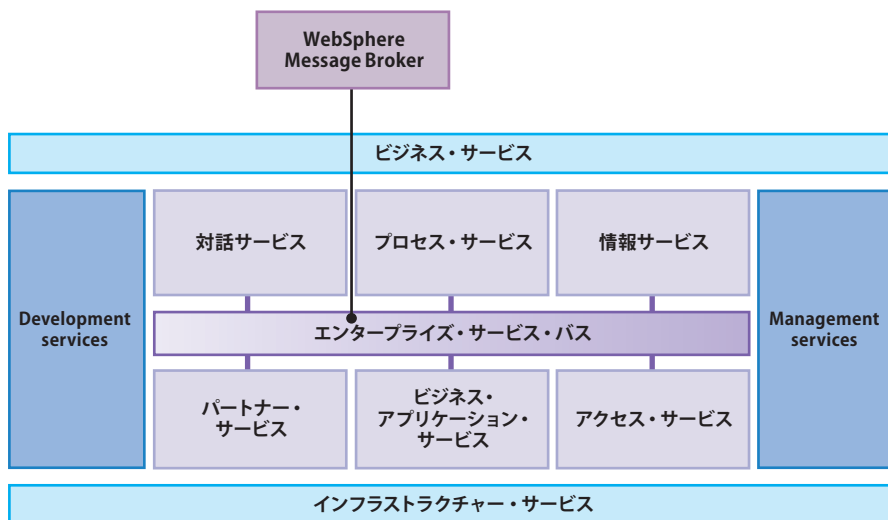
IBM WebSphere Message Broker V6.1

ハイライト

- 事実上あらゆるコンテンツを異機種混合の IT 環境間でルーティング、変換、カスタマイズできます。
- ビジネス・システムや運用システムにおいて、メッセージとプロトコルの高速スイッチとして機能します。
- ビジネス・ルールとアプリケーション、あるいはデータベースへのアクセスによって、メッセージの内容を加工できます。
- 運用の効率化のために、複雑なイベント処理機能および豊富なメッセージ・ロギング、レポート作成機能を提供します。
- Smart SOA の実装を通じて、完全なフェデレーテッド ESB モデルへの展開を可能にします。
- リアルタイム統合のために、堅固で拡張性に富む、高性能なソリューションを提供します。

バリュー・チェーンに関与するすべての人や部門からの要望を満たす必要性が高まるにつれ、企業では IT 投資を最大限に活用することが求められてきています。そのためにサービス指向アーキテクチャー (SOA) に移行して、資産の再利用を推進し、ビジネスの柔軟性を向上させようとする企業もあるでしょう。あるいは、既存のアプリケーションと、そこから絶えず提供される重要なデータを最大限に活用しようとする企業もあるでしょう。しかし、人海戦術によるアプローチや、カスタム・コードのプログラムでアプリケーション同士をつなぐソリューションに頼る方法ではもはや効果を上げることはできません。

企業では製品やサービスに関するデータは各部署で独自に管理されています。情報がある部署から別の部署へ移動すると社員は情報を再入力せねばならず、遅れや誤りが発生する場合があります。また情報を 1 つにまとめるために、企業ではカスタム・コードを社内開発しています。しかし、統合ニーズの高まりとともにアプリケーション間のリンクを独自に開発・保守する時間と費用が大幅に増えて、企業の収益に直接影響を与える可能性が出てきました。



WebSphere Message Broker はサービス指向アーキテクチャーのエンタープライズ・サービス・バスとして機能します

そのため企業では、柔軟性と再利用性を損なう可能性のある複雑なプログラミングなしに、IBM WebSphere® MQ ソフトウェアなどのセキュリティーが充実した、信頼できる送達機構でアプリケーションを接続して、やり取りするデータを適切な形式で、適切なアプリケーションに、適切なタイミングで提供する必要性を認識するようになりました。保有するすべての IT リソースを集約すると、運用効率を最大限に高めて、顧客、取引先、サプライヤーに一貫性のある正確な情報を提供できます。また、新しいアプリケーションを個別に運用するのではなく、既存の IT 資産を活用および再利用することにより、円滑な事業運営に必要な機能を入手することができます。包括的なエンタープライズ・サービス・バス (ESB) を使用すれば、資産を容易に統合できるだけでなく、現在運用しているアプリケーションからさらに多くの価値を引き出すことができます。

多様な IT システムの課題への対応

IBM WebSphere Message Broker バージョン 6.1 とは、SOA に不可欠な統合された ESB として機能したり、柔軟で強力なエンタープライズ・アプリケーション・インテグレーション (EAI) 機能を提供して、アプリケーション統合や情報メディエーションのニーズに対応するソリューションです。WebSphere Message Broker ソフトウェアは、その堅固な設計、拡張性に富むアーキテクチャー、高い性能、使いやすさを生かし、企業規模の SOA の段階的な実装を可能にする ESB を提供して、進化を続けるお客様のビジネス・ニーズを満たすとともに、お客様が完全なフェデレーテッド ESB モデルに成長するのを支援します。このような柔軟な組み合わせの機能を利用することにより、お客様は事実上どこから着手しても、統合上の課題を解決できます。事業の成長とともに統合上の課題も増えます。WebSphere Message Broker は、インフラストラクチャーを複雑化することなく拡張して、お客様が変化するビジネス・ニーズに対応するのをサポートします。その結果、お客様はビジネス・ニーズの変化や新しいビジネス・チャンスに対応できるだけでなく、アプリケーションやデータ構造に対する既存および続行中の投資を保護できます。

WebSphere Message Broker は、複数のプラットフォームに散在するアプリケーションやビジネス・データを多様な通信プロトコルで接続することにより、必要な場所に、必要な形式で、必要な転送層を使用して情報を提供することを可能にします。このソフトウェアを使うと、あらゆるビジネス・データを変換して内容とビジネス・ルールに応じて加工し、さらに必要に応じてこのデータをアプリケーション間でルーティングできます。またこれらの統合作業をアプリケーション・ロジックから切り離すことで、コア・アプリケーションをより効率的に運用し、その再利用を促進するとともに、プロセスにおけるビジネスの柔軟性を高めることができます。

プロセスの整合性を備えた ESB

SOA においては、ESB はサービス・リクエスターとサービス・プロバイダー間の情報配信を最適化する接続層の役割を果たします。

この役割を果たすには、トランザクション、インタラクション、情報の整合性を実現可能にするプロセスの整合性が大切です。ESB は、共通の標準に準拠するアプリケーションの数およびまだサービス化されていないアプリケーションの数に応じて、企業全体の接続ソリューションの一部として組み込む必要があります。

WebSphere Message Brokerは、データの内容とビジネス・ルールに応じて、高性能で多形式にわたるリアルタイムの変換とルーティング処理をし、データ型やアプリケーションのプログラム形式を問わず、データベースやアプリケーションのデータ・ソースとやり取りをしたり、それらを統合することを可能にします。また、従来のアプリケーションをサービスとしてラップして、SOAの配置を加速することもできます。WebSphere Message Brokerによってビジネスに必要な変換のすべて、あるいは一部を処理することができるため、お客様はアプリケーション・ロジックにカスタム・コード化という負担を課すことなく、アプリケーションやサービス間での複雑で非標準のデータ形式の変換を並行して処理できます。さらに、お客様がカバーできるIT環境の範囲をESBによって広げることで、IT投資に最大の価値を発揮させることができます。この結果、お客様は、WebSphere Message Brokerのブローカーを配置する結果として、IBM WebSphere Application ServerとWebSphere MQの堅固な機能を使用したITインフラストラクチャー全体を活用することができます。

WebSphere MQは、これらのメッセージング・リソースをシームレスに拡張して、80を超えるプラットフォーム間で事実上あらゆるメッセージングを統合します。例えば、WebSphere Message BrokerはJava Message Service (JMS) ノードなどを介してJava™ 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE) システムと対話できます。またIBMでは、容易に使用可能なJ2EE環境との対話方法の数を増やしていく予定です。WebSphere MQには、プログラミングのオプションとしてネイティブのMQIアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) とJMSのサポートのほか、Java以外のプログラミング環境用に標準化したAPIを提供するためのプログラミング・インターフェースが用意されています。

WebSphere Message Brokerは幅広いメッセージ配信オプションやプロトコルをサポートするのに加えて、メッセージの加工、ログ、内容に基づいたルーティングや変換といった統合機能をフルに提供して、これらのサービスの柔軟性とパフォーマンスを向上させます。WebSphere Message Brokerは、これらの機能を通じてサービスだけでなく事実上すべてのビジネス・システムやアプリケーションを取り込み、お客様のIT資産をフルに活用できる包括的なESB機能を提供し、さらには取引先のアプリケーションやビジネス・プロセスとのより良い統合をも推進します。

既存のIT資産からの新しいビジネス価値の創出

WebSphere Message Brokerは既存の統合ミドルウェアの配置環境を機能拡張して、お客様が単なる接続だけでなく、より複雑な統合の課題にも対処できるようにします。シームレスにリアルタイムで実動アプリケーションやシステムを使用および再利用することを可能にするリンクによって、標準ベースの複合アプリケーションを始めとする事実上すべてのビジネス・アプリケーションをSOAの一部として組み込むことができます。また、統合ロジックをアプリケーションから簡単に切り離して開発・配置できるようになるため、実稼働への移行のスピードアップおよびアプリケーションのシンプル化と再利用を促進できます。

WebSphere Message Broker はオープンで拡張可能なインターフェイス群を通じてニーズの変化に対応できるように設計されています。そのため、ビジネス・ニーズの発展に応じて重要なアプリケーション機能を再利用しながら、IT 基盤にコンポーネントを追加することが可能になり、お客様はビジネスの成長と共に機能を拡大することができます。この結果、お客様は次世代のイノベーションを利用しながら、既存のビジネス・アプリケーションへの投資を保護、活用、拡張できます。

WebSphere Message Broker は制限のない ESB を構築するためのキーとなる役割を果たし、お客様は、すでに所有している資産だけでなく、ビジネス上の総合接続ソリューションとして開発された新しい資産も使用することができます。

本リリースの新しい機能

WebSphere Message Broker バージョン 6.1 には、数々のアプリケーションとの統合を可能にする次のような新機能が含まれています。

- *WebSphere Message Broker* 始動までの時間の短縮
- デバッグなどの開発作業の簡素化、実動ソリューションの作成時間の短縮
- *WS-Security* および *WS-Addressing* による Web サービスのネイティブ・サポート
- *IBM WebSphere DataPower® Integration Appliance XI50* による *WS-Security* のサポート

- *WebSphere Service Registry and Repository* のサポートの統合および拡張
- *SAP*、*Siebel* および *PeopleSoft*、*Oracle eCommerce*、*JD Edwards* などの、*Enterprise Information System (EIS)* アクセスのための組み込みノード
- ファイル転送プロトコル (*FTP*) を始めとする、大容量ファイル処理のネイティブ・サポート
- 新しい *Simple Mail Transfer Protocol (SMTP)* および *Transmission Control Protocol (TCP)* ノード
- ランチャー機能を含む、*IBM WebSphere Transformation Extender* の統合
- *IBM Tivoli®* ソフトウェアと *Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)* を使用した全社的な *ID*、認証、許可
- *Eclipse* ベースの *Explorer* による管理
- 多数の管理機能の向上
- 64 ビット *Linux®*、*Java Database Connectivity (JDBC) XA*、*Java 5* のサポート
- スキーマの妥当性検証を含む高い性能を誇る *XML* パーサー
- コンパクト化されたメモリー・フットプリントとリアルタイムのグラフィカルなパフォーマンス分析
- すべてのプラットフォーム上での大幅なパフォーマンス向上

最新の機能と整合性

WebSphere Message Broker はミッション・クリティカルな接続性を提供します。バージョン 6.1 では新たなプラットフォームをサポートして、お客様が SOA インフラストラクチャーにさらに深く踏み込むことを可能にします。WebSphere Message Broker を使用すると、すべてのプラットフォームでパフォーマンスを大幅に向上させることができます。WebSphere Message Broker はファイルとメッセージを処理するためのシンプルなプラットフォームですが、メッセージ要素を特定したり、既存のメッセージ定義を使用してレコードの境界を特定するといった、レコードの特定と検出に対する複雑なサポートを行います

標準のサポートと接続性の拡張

反復のある複雑な大量のファイル・レコードの処理を、余分なストレージを使わずに簡素化できます。バージョン 6.1 にはまた、エンタープライズ・リソース・プランニング (ERP) システム用の *JCA* ノードも組み込まれています。これらのノードによって、キーとなる ERP 統合シナリオの管理がシンプル化され、そのパフォーマンスも改善されます。バージョン 6.1 は *Basic Profile 1.1* にも準拠します。すぐに使える WebSphere セキュリティーと WebSphere アドレッシングのサポートは、SOA と Web サービスのサポート拡大に役立ちます。

SOA 環境の成功の鍵はデータベース・アプリケーションとの統合にあります。WebSphere Message Broker を WebSphere Adapter for SAP と併用することにより、非常に高速で効率的な処理が可能になります。また、新しい IDoc パーサーによって IDoc の処理効率が向上します。さらに、信頼性の高いファイル処理と高性能の XML パーサーによって、SAP とのシームレスな統合が実現できます。

JMS プロバイダーを問わず、お客様は社内全体で汎用的な接続基盤を確保できます。WebSphere Message Broker は、HTTP、任意の JMS 1.1 プロバイダー、WebSphere MQ など、複数のトランスポートをサポートしています。また、ランチャー機能も含めて WebSphere Transformation Extender との統合が可能です。これによって Transformation Extender マップをネイティブで実行して、今まで利用できなかった幅広い変換テクノロジーが利用できるようになりました。

ユーザー・エクスペリエンスおよびコンシューマビリティ (使いやすさ) 機能
WebSphere Message Broker バージョン 6.1 の新機能はインストールと管理の向上に役立ちます。新しいユーザーは、バージョン 6.0 の半分の時間で WebSphere Message Broker を使い始めることができます。バージョン 6.1 では、シングルクリックでデフォルトの構成をインストールして実行することができます。WebSphere Message Broker は、ユーザーが 1 時間以内にインストールし、サンプルを実行できるように設計されています。

これに加えて、WebSphere Message Broker には開発を単純化して開発時間を短縮するための視覚的なツールが用意されています。すべての新しいノードのための構成主導のアプローチをベースにしたこれらのツールには、メッセージのロケーションを特定したり、メッセージやデータベースに対するルーティングやフィルタリングをシンプルにするグラフィカルなツールおよびビューアのほか、デバッグやテストを容易にすることを目的とした、メッセージのトレースを表示するビジュアル・トレース機能が含まれています。WebSphere Message Broker では以前のバージョンとの共存と、以前のバージョンからの移行がサポートされています。バージョン 5 やバージョン 6 で作成した資産はそのまま使用でき、変更の必要はありません。クリック 1 つでロールバックも可能です。これらの機能によって、お客様は各自のペースでバージョン 6.1 に移行できます。

Tivoli ソフトウェアと Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) を使用した全社的な ID 認証および許可機能によって、サービス・ポリシーをユーザーレベルで適用して、セキュリティを強化できます。

WebSphere プラットフォームに共通のツール

WebSphere Message Broker バージョン 6.1 では、WebSphere MQ と WebSphere Message Broker の両方のネットワークを 1 つのコンソールで管理できます。また、WebSphere Message Broker は Eclipse ベースの Explorer による管理機能を提供します。

さらに、WebSphere Transformation Extender の Eclipse ベースのツールを、WebSphere Message Broker のツールキットと統合できます。この統合によって、拡張変換機能の視覚的な統一感を感じることができます。また、WebSphere Service Registry and Repository の SOA サポートの拡張により、より広範は再利用のためのサービスの仮想化を可能にします。さらに、クロスドメインのサポートと、IBM WebSphere DataPower Integration Appliance X150 のサポートにより、セキュリティの強化と、WebSphere のセキュリティ処理のスピードアップが実現できます。

詳細情報

IBM WebSphere Message Broker バージョン 6.1 の詳細については、IBM 担当者または IBM ビジネス・パートナーにお問い合わせいただくか、以下の Web サイトをご覧ください。

ibm.com/websphere/wbimessage-broker

Global WebSphere Community に参加するには、以下の Web サイトをご覧ください。

www.websphere.org

IBM WebSphere Message Broker バージョン 6.1 の概要

新名称	旧名称
IBM WebSphere Message Broker	IBM WebSphere Business Integration Message Broker

ハードウェア要件

指定されたオペレーティング・システム、対応する支援ソフトウェア、関連アプリケーションに対して明示的に互換性を持ち、修正なしでそれらを完全に実行できる、あらゆるベンダー・ハードウェア。マシン間の完全な互換性に関するステートメントは機器の提供元が提供するものとします。

サーバー要件 (次のいずれか)

- IBM System p™ または IBM RS/6000® サーバー
- Sun SPARC サーバー
- Hewlett-Packard HP-9000 サーバー (PA-RISC または Itanium®)
- IBM System x™ および Intel® テクノロジー搭載サーバー (または同等品)
- IBM System i™ サーバー (IBM Integrated System x プラットフォームを使用)
- IBM System z™ サーバー (Linux on System z 用)
- IBM WebSphere Message Broker ツールキット :
- Microsoft® Windows® x86 テクノロジーと互換性のある PC ハードウェア
- 記載した IBM z/OS® リリース (z/OS 用) のいずれかを実行できる任意のサーバー
- Solaris x86-64 プラットフォーム AMD68、EMT64T および互換プロセッサ

ソフトウェア要件

Windows

オペレーティング・システム (次のいずれか)

- Microsoft Windows XP Professional
- Windows Server 2003 Standard Edition
- Windows Server 2003 Enterprise Edition

データベース (次のいずれか)

- IBM DB2® Universal Database™ Enterprise Edition バージョン 8.2
 - DB2 Universal Database Enterprise Edition バージョン 9.1
 - Informix Client SDK V 2.90 (UC4 フィックスパック)
 - Informix Dynamic Server V9.40 (UC7 フィックスパック)
 - Microsoft SQL Server 2000 (SP3A)
 - Microsoft SQL Server 2005 (SP1)
 - Oracle 10g Standard または Enterprise Edition リリース 1 および 2
 - Sybase Adaptive Server Enterprise (ASE) バージョン 12.5 (非 XA のみ)
-

IBM WebSphere Message Broker バージョン 6.1 の概要 (続き)

ソフトウェア要件 (続き)

AIX

オペレーティング・システム (次のいずれか)

- IBM AIX® バージョン 5.3

データベース (次のいずれか)

- DB2 Universal Database Enterprise Edition バージョン 8.2
 - DB2 Universal Database Enterprise Edition バージョン 9.1
 - Informix Client SDKV 2.90 (UC4 フィックス/パック)
 - Informix Dynamic Server V9.40 (UC7 フィックス/パック)
 - Microsoft SQL Server 2000 (SP3A)
 - Microsoft SQL Server 2005 (SP1)
 - Oracle 10g Standard または Enterprise Edition リリース 1 および 2
 - Sybase ASE バージョン 12.5 (非XA のみ)
-

HP-UX PA-RISC

オペレーティング・システム

- HP-UX 11i バージョン 2 (B.11.23)
- HP-UX 11i バージョン 3 (B.110.31)

データベース (次のいずれか)

- Informix Client SDKV 2.90 (UC4 フィックス/パック)
 - Informix Dynamic Server V9.40 (UC7 フィックス/パック)
 - Microsoft SQL Server 2000 (SP3A)
 - Microsoft SQL Server 2005 (SP1)
 - DB2 Universal Database Enterprise Edition バージョン 8.2
 - DB2 Universal Database Enterprise Edition バージョン 9.1
 - Oracle 10g Standard または Enterprise Edition リリース 1 および 2
 - Sybase ASE バージョン 12.5 (非XA のみ)
-

HP-UX Itanium

オペレーティング・システム

- HP-UX 11i バージョン 2 (B11.23) (Integrity 用)

データベース (次のいずれか)

- DB2 Universal Database Enterprise Edition バージョン 8.2
 - DB2 Universal Database Enterprise Edition バージョン 9.1
 - Oracle 10g Standard または Enterprise Edition リリース 1 および 2
-

Sun Solaris SPARC

オペレーティング・システム (次のいずれか)

- Sun Solaris オペレーティング環境 バージョン 9、推奨パッチ・クラスター・レベル
- Sun Solaris オペレーティング環境 バージョン 10、推奨パッチ・クラスター・レベル

データベース (次のいずれか)

- DB2 Universal Database Enterprise Edition バージョン 8.2
 - DB2 Universal Database Enterprise Edition バージョン 9.1
 - Informix Client SDKV 2.90 (UC4 フィックス/パック)
 - Informix Dynamic Server V9.40 (UC7 フィックス/パック)
 - Microsoft SQL Server 2000 (SP3A)
 - Oracle 9i Standard または Enterprise Edition リリース 2 パッチ・セット 4
 - Microsoft SQL Server 2005 (SP1)
 - Oracle 10g Standard または Enterprise Edition リリース 1 および 2
 - Sybase ASE バージョン 12.5 (非XA のみ)
-

IBM WebSphere Message Broker バージョン 6.1 の概要 (続き)

ソフトウェア要件 (続き)

Sun x86-64

オペレーティング・システム (次のいずれか)

- Sun Solaris オペレーティング環境バージョン 10、推奨パッチ・クラスター・レベルデータベース (次のいずれか)
- DB2 Universal Database Enterprise Edition バージョン 8.2
- DB2 Universal Database Enterprise Edition バージョン 9.1
- Oracle 10g Standard または Enterprise Edition リリース 1 および 2
- Sybase ASE バージョン 12.5 (非 XA のみ)

Linux on x86、x86-64、System z

オペレーティング・システム (次のいずれか)

- Linux Intel SUSE Linux Enterprise Server (SLES) V9
- Linux Intel SUSE Linux Enterprise Server (SLES) V10
- Linux Red Hat Enterprise (RHEL) Linux AS V4.0 (Update 2) 以降
- Linux Red Hat Enterprise Linux AS V5.0 以降

データベース (次のいずれか)

- DB2 Universal Database Enterprise Edition バージョン 8.2
- DB2 Universal Database Enterprise Edition バージョン 9.1
- Oracle 10g Standard または Enterprise Edition リリース 1 および 2
- Sybase ASE バージョン 12.5 (非 XA のみ)、Linux on System z では利用不可
- Informix Client SDK V 2.90 (UC4 フィックスパック)
- Informix Dynamic Server V9.40 (UC7 フィックスパック)
- Microsoft SQL Server 2000 (SP3A、非 System z)
- Microsoft SQL Server 2005 (SP1、非 System z)

z/OS

オペレーティング・システム (次のいずれか)

- IBM z/OS バージョン 1.7 (5694-A01)、RSU0609 以降 (対象システム用)
- IBM SMP/E for z/OS (5655-G44) バージョン 3.3 以降

データベース (次のいずれか)

- DB2 Universal Database (S625-DB2) バージョン 8.1、RSU0609 以降
- DB2 バージョン 9.1

Linux on Power

オペレーティング・システム (次のいずれか)

- Linux Intel PowerPC SUSE Linux Enterprise Server (SLES) V9
- Linux Intel PowerPC SUSE Linux Enterprise Server (SLES) V10
- Linux PowerPC Red Hat Enterprise (RHEL) Linux AS V4.0 (Update 2) 以降
- Linux PowerPC Red Hat Enterprise Linux AS V5.0 以降

データベース (次のいずれか)

- DB2 Universal Database Enterprise Edition バージョン 8.2
- DB2 Universal Database Enterprise Server バージョン 9.1
- Oracle 10g Standard または Enterprise Edition リリース 1 および 2
- Sybase ASE バージョン 12.5 (非 XA のみ)、Linux on System z では利用不可
- Informix Client SDK V 2.90 (UC4 フィックスパック)
- Informix Dynamic Server V9.40 (UC7 フィックスパック)
- Microsoft SQL Server 2000 (SP3A)
- Microsoft SQL Server 2005 (SP1)



© Copyright IBM Corporation 2007

日本 IBM 株式会社
ソフトウェア事業
〒 106-8711
東京都港区六本木 3 丁目 2 番 12 号

AIX、DataPower、DB2、DB2 Universal Database、IBM、IBM ロゴ、RS/6000、System i、System p、System x、System z、Tivoli、および WebSphere は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Intel、Itanium、および Pentium は Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。